



— こんにちは、インソレ。章人くんはアイヌ民族のおどりが得意なんですね。一度エムシリムセを見せてもらいましたが、すごく決まっていたね。おどりはどこで覚えましたか。

— 地元の天内重樹さんから教わりました。クリムセウのおどり、もやります。

— おどり以外に、何か体験したことがありますか。マレクという「もり」を使ってサケをとったことがあります。やっぱり天内さんに教えてもらって。特別採捕制度という手続きがあるんですね。とてもいい経験でしたね。

— 小学校の時はアイヌ語教室にも行っていて、単語を覚えました。色の名前とか。

— 学校でも教えてくださいます。

— 教科では社会、とくに歴史が好きです。中一の時に道徳の授業でアイヌのことが出てきました。

ヘカチ マッネカチ

木村 章人くん(中3)
〓 釧路管内白糠町

おどり学びサケとり体験

— ほかの子は章人くんがアイヌ民族だと知っていますよね。そういうときどんな反応？

— そんなにはないけど、「すごいね」とか。

— なるほど。ふだんはどんなことをしていますか。

— 学校が終わってからはバスケットや「バスドラ」っていう携帯ゲームをしたり、ONE OK ROCKの曲を聞いたりとか。

— これからしてみたいことは。

— 高校に入ったら、部活でバスケットをやりたいです。

— 読んでいる小学生に伝えたいことは。

— 勉強とか、自分のやりたいことをがんばって。

— ありがとございました。イヤイライケレ。

◇

「ヘカチ マッネカチ」は「男の子 女の子」という意味です。若いアイヌの人にインタビューするコーナーです。

読んでみよう

アイヌ語には日本語にない音があります。これをカタカナで書くときには字を小さくして表します。このページのタイトル「ミントラ」の「ラ」もそうですね。小文字は全部で14種あります。ミントラでは毎回、そのいくつかの読み方をしようかします。今回は小さい「ク」です。例えば「サク」(夏)、「イタク」(話す、言葉)、「レクボ」(鳥のなき声)という単語などに使われます。「サク」の発音をする時には、ゆっくり「サッカー」と言うつもりで、舌のおくが口の天井についたところで止めます。くちびるは開いていて、舌先はどこにもつきません。

「レクボ」のように、後ろに別の音が続く場合は「レク」と言った後にほんのすこし間をおいて「ボ」を発音するとよいでしょう。なればは一気に発音できます。

「ク」の発音を動画でも学べます。出演は関根摩耶さん。指導は千葉大学文学部教授の中川裕先生です。スマートフォンを持っている人は、QRコードから読みこんでください。



失われた物語 ショリッオロシヤ

監修 佐々木 利和

最も大きな戦いひきいた

1669年に起きた「シャクシャインの戦い」は、アイヌ民族と和人の間に起こった戦いとして、最も大きなものです。

この戦いのリーダーとなったのが、シャクシャインという男性です。アイヌ語で伝えられてきた名前はサムクシアヌといい、戦いの時には60歳を過ぎていたといわれています。

アイヌ民族は、地域ごとにいくつかのまとまりを作ってきました。今の日高管内新ひだか町・静内地区は、西と東のグループがとなり合う境界の一つでした。シャクシャインは西のグループにいました。東西のグループはしばしば対立することがあり、1668年には東のリーダーであるオニビシが殺される事件がありました。こうしたアイヌ民族同士の対立は、やがて和人である松前藩との戦いになっていきました。アイヌ民族同士の争いは生活が苦しくなったためですが、その原因が松前藩にあると考えた人が多かったのです。

シャクシャインは道内各地のアイヌ民族に呼びかけ、太平洋側のほとんどの地域がこれにのぞいて立ち上がりました。翌69年6月に戦いが始まると、シャクシャインたちの軍勢は、現在の渡島管内・長万部町国縫まで進みましたが、やがて東北地方の諸大名からの援軍がくると戦況は苦しくなり、新ひだか町付近まで後退しました。

そこで松前藩から和睦(戦いを終わらせ話し合いで解決すること)の申し出があり、シャクシャインは話し合いに出かけて行きました。ところが、和睦を行うはずの席で、シャクシャインは殺されてしまったのです。

この戦いの後、アイヌ民族の自由はますますなくなりました。ただ、うすの中にかくした子供が生き残ったとされ、シャクシャインの人物も地元のアイヌ民族の間ですっと語り継がれてきました。

1903年から、シャクシャインの城があった真歌の丘でシャクシャインを供養する祭りが始まり、9月23日に毎年行われています。(敬称略)



シャクシャイン(1606年?～69年)



シャクシャインの時代には、アイヌ民族のもとに松前藩のさむらいがやって来て、交易をしていました。はじめはサケ100本に対し、米1俵で交換していました。ただし、ふつうの俵には米が4斗入っていますが、交易に出される俵は半分の2斗入りでした。戦いが起きる少し前には、さらに少ない8升入りの俵と交換するようせまられました(1斗が10升到あたります)。アイヌ民族にとって、大変困ったことでした。

また「押し買い」といって、干したアワビなどの品を和人が求める数だけそろえられないと、20倍もの罰金を取られたり、家族を人質にされる異常な仕組みもありました。そのため、となりのグループと争ってでも狩りや漁の場所を手に入れ

なければならませんでした。

和人の砂金ほりたちが、アイヌ民族のくらす川で砂金をとったことで水がよごれてしまう被害もありました。松前藩はオニビシに砂金ほりたちのガードをさせたために、シャクシャインたちとの対立がはげしくなったともいわれます。

一目置かれた英雄

シャクシャインの話は、リックシアヌという弟がいつもいっしょにいたことや、道東から移住してきたこと、もう一つがう名前があったこと、松前藩の追っ手をかわすために川に着物を流して目をくらましたことなど、細かく語りつがれてきました。

対立していたグループの人からも一目置かれ、英雄のように考えられてきたのです。